

令和5年度の研究の概要

研修部

1. 本校の教育目標

SDGs みらいを拓く心豊かな生徒の育成

本校の教育目標は「SDGs みらいを拓く心豊かな生徒の育成」である。現在は Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまで以上に先行きが不透明で将来の予測が困難な未来を迎えようとしている。このような社会において、子供達には、自ら考え、主体的に行動しつつ、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動を取る力などが必要とされている。そしてまた、学校や地域社会の一員として参画し、自らの個性を生かして幸せに生活でき、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出されることのできるようにするためには、他者への共感や寛容性、更には多様性を尊重する態度、人間関係を築く力、異なる考えの人々と議論を重ねながら問題を解決していく力などを育成する機会を学校が提供していくことが必要となってくると中央教育審議会でも提示されている。本校でも、自己肯定感、他者への思いやり、コミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力の育成に今後も力を入れていきたい。

2. 学校研究（本校）

研究主題 「自ら学ぶ意欲をもった生徒の育成」

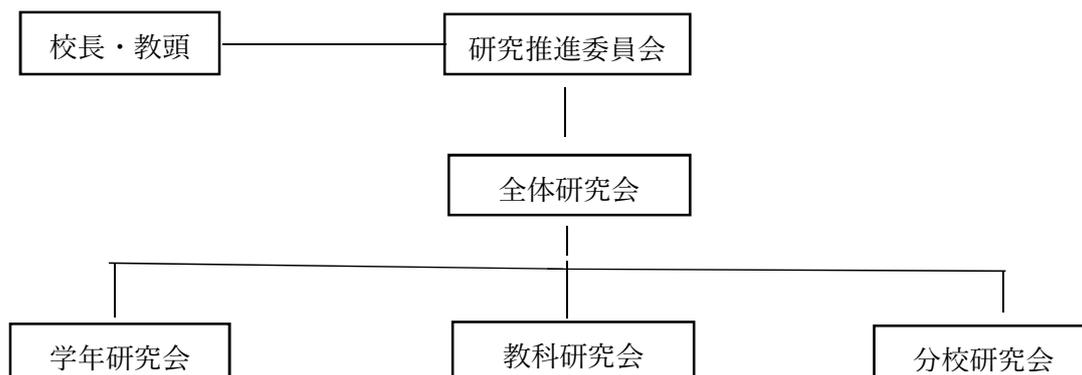
～ 生徒の可能性を引き出す教師の働きかけを通して ～

《主題設定理由》

昨年度の小將町中学校では授業の後半の充実を大切に、まとめや振り返りを自分の言葉で表現することを重点としてきた。その結果、自分で考えたりその考えを伝え合う場面が多くなり、様々な考えに触れることができるようになった。しかし、なぜその授業でそのことを考えるのか、どのように次の授業につながっていくのかが具体的に共有されていないこともあった。よって今年度は、見通しを持った学習ができるように教師の働きかけを工夫する研究をしていきたい。

副題は「生徒の可能性を引き出す教師の働きかけを通して」とする。生徒個々が「前よりもできるようになった。」と自分の成長に気付くためには、教師の言葉かけが必要不可欠である。自己有用感や自己肯定感を高めるためにも、生徒への働きかけを意識した授業改善を行っていきたい。

《研究組織》



《今年度の研究の重点》

生徒が自ら学ぶ意欲を持つことで、主体的で対話的な学びの実現を目指したい。そのために、教師が「種まき」をして生徒達の学ぶ意欲を育てていく必要がある。どのような種まきが効果的であるか研究を重ねていきたい。

一つ目の重点は「学習の見通しを持たせる工夫」である。何を学習して、その単元が終わったらどのようなことができるようになるのか、早い段階で生徒と共有していく。ゴールの姿を明確にすることで、生徒のやる気を引き出していく。また、授業の中や単元の途中で発問も工夫し、今はどの段階なのかを教師も生徒も把握できるようにしておく。

二つ目の重点は「変容を自覚できる工夫」である。自分の成長に気付くことで、意欲を高めていくことが期待される。単元や授業の最後に振り返りを行うことや、日々の授業の中で教師が励ましていくことで、「ここまでできるようになった」という自信につなげていきたい。また5教科だけでなく、総合的な学習の時間や特別活動を通して活用力や応用力を伸ばし、教科横断的な学びも促進していく。

重点1 学習の見通しを持たせる工夫

- ① 学習の状況を把握させる発問や問い返し
- ② 単元のゴールの姿を共有するための工夫

重点2 変容を自覚させる工夫

- ① 自己の変容を自覚できるような工夫
- ② 学んだことを活用につなげる工夫

《研究方法》

研究の方法

- (1) 各教科において生徒の実態把握を行う。
 - ・定期テスト（全学年）、全国学力調査・県基礎学力調査（3年）を分析。
- (2) 各教科において、教員間の共通理解をはかる。
 - ・学習の見通しを持たせるための方策（単元の最初の共通理解、評価基準の示し方等）を決める。
- (3) 研究授業や相互授業参観を行う。
 - ・全教員が研究の重点を理解した授業を行う。
- (4) 各学年において、生徒の主体性を養う取り組みを考える。
 - ・生徒が計画的に学習できる素地を養うため、フォーサイト手帳を使う。
 - ・朝学習の内容を工夫し、読書やドリルなどを計画的に実施する。
- (5) 各種アンケートを実施する。
 - ・教職員の授業セルフチェック、生徒の授業アンケートを実施する。

《教育目標「SDGs みらいを拓く心豊かな生徒の育成」に向けて》

本校の教育目標の達成に向けて、SDGsを生徒も教職員も意識できるよう、以下のような取り組みを行ってきた。

7月21日、本校の校内研修会において、金沢大学大学院教職実践研究科 加藤 隆弘 准教授より御講話いただいた。その際、長野県山ノ内町立山ノ内中学校のSDGsと総合的な学習の時間をつなげた先進的な取組である「中学生が夢見るまちづくり討論会」について紹介いただいた。討論会本番や本番までの取組において「生徒に任せる時間の設定」「生徒同士で質問し答えることを何往復できるかを練習し、受け答えをする文化を創っていく」という加藤准教授のお話より、本校の今年度の研究の重点にもある「生徒が自ら学ぶ意欲を持つことで、主体的で対話的な学びの実現」につなげる取組を行ってきた。また、加藤准教授からの「年間指導計画を見渡ししながら、総合的な学習の時間、各教科等とSDGsをつなげられる単元や内容がないか検討する」ことについてのご指摘を参考に、教科部会や学年会、校内研修会において、本日の総合的な学習の時間と各教科の指導案を作成してきた。

指導案の作成においては、金沢市教育委員会より原宏史主任指導主事をはじめ指導主事の先生方にご助言いただいた。ご指導いただいたことを参考に、今後とも教育目標を全教職員で共有し、更に実践を進めていきたい。